

ICTの取り組み

～薬剤耐性菌検出状況を中心に～

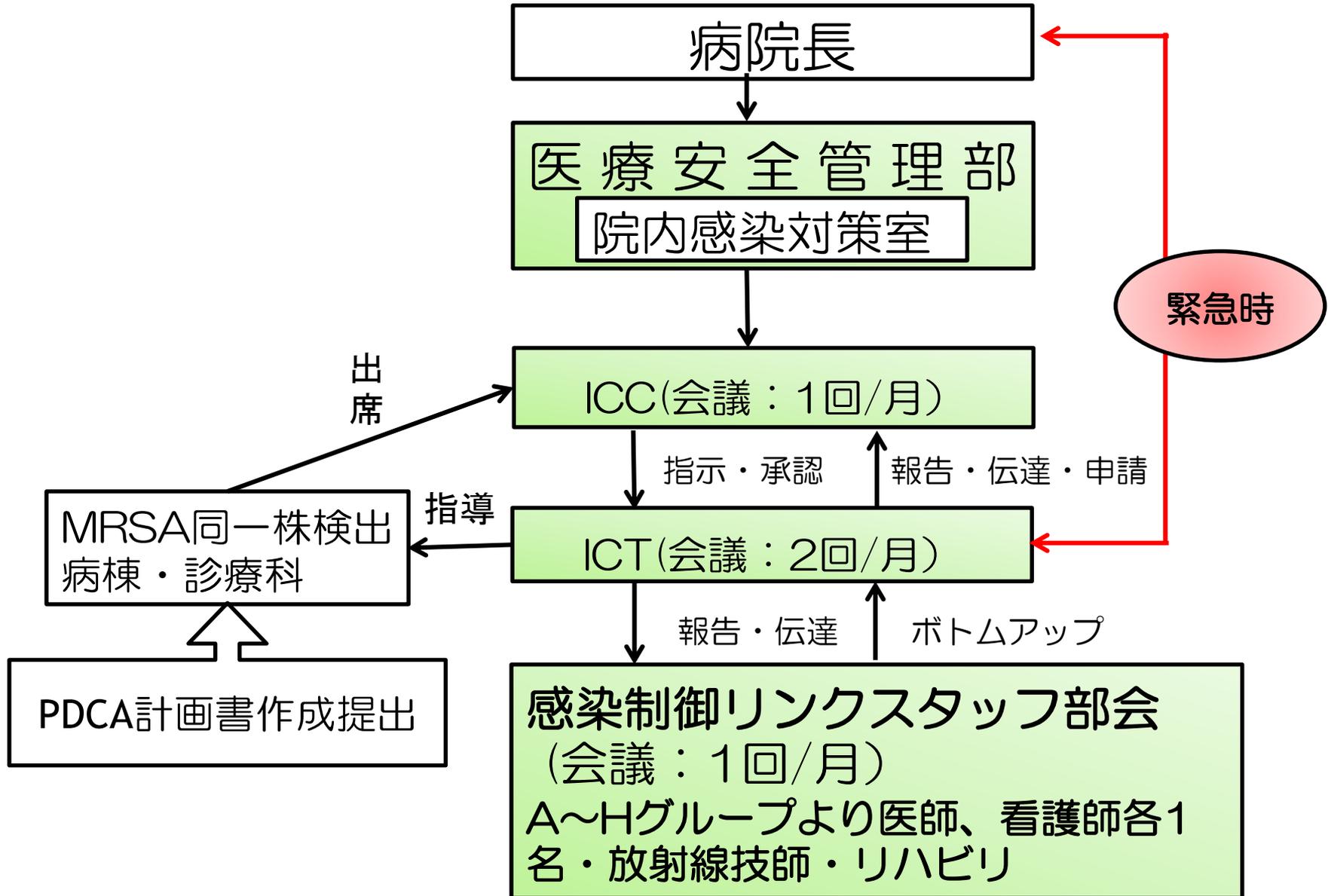
白野倫徳

大阪市立総合医療センター

Infection Control Team (ICT)

大阪市立総合医療センター さくらホール

当院の感染管理組織図



ICTとは

- 院内感染の防止を目的として、医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務が連携し組織横断的に活動している。

主な活動

- 定例会議（第2, 4水曜日）
- 耐性菌の監視、全例ラウンド実施
- サーベイランス（SSI、検査部門、全入院部門、CLABSI）
- 抗菌薬の届出制、許可制
- TDM（Therapeutic Drug Monitoring）
- 抗菌薬適正使用ラウンド
- 血液培養陽性者ラウンド
- アウトブレイク時の対応、介入
- 環境監査ラウンド（1回/週）
- 院内感染防止マニュアルの作成・随時改訂
- 職員への研修
- 感染症診療・感染対策についての職員からの相談窓口
- ICT Webによる広報
- ICTニュース発行

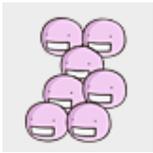
ICT構成メンバー

 コアメンバー

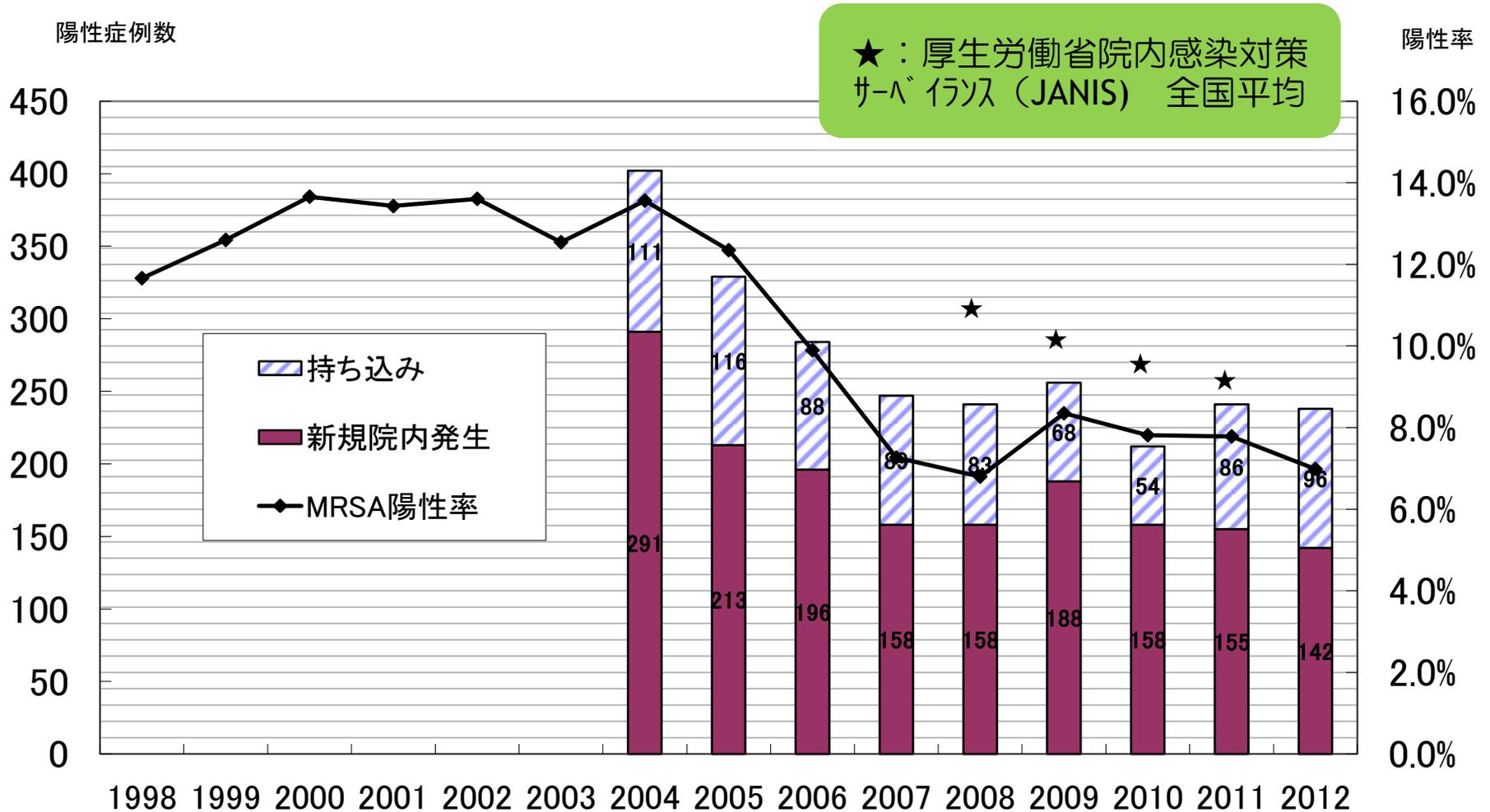
補職	職種	氏名	
副院長	医師	原純一	ICT代表
医務監兼小児総合診療科部長	医師	外川正生	
感染症センター医長	医師(ICD)	 白野倫徳	
救命救急センター医長	医師(ICD)	石川順一	
消化器外科シニアレジデント	医師	中島隆善	
肝胆膵外科副部長	医師	清水貞則	
血液内科シニアレジデント	医師	吉田全宏	
感染症センターシニアレジデント	医師	笠松 悠	
感染症センターレジデント	医師	亀田和明	
看護部主査 (すみれ10)	看護師	濱田喜代美	
中央臨床検査部	検査技師	 藤川康則	
医療安全管理部	看護師(CNIC)	 今崎美香	: 専従
診察受付4	看護師(CNIC)	河野尚美	: 兼任
薬剤部	薬剤師(BCPIC)	 高岡章子	
管理課担当係長 (厚生)	事務職員	隈元勇	

ラウンド風景



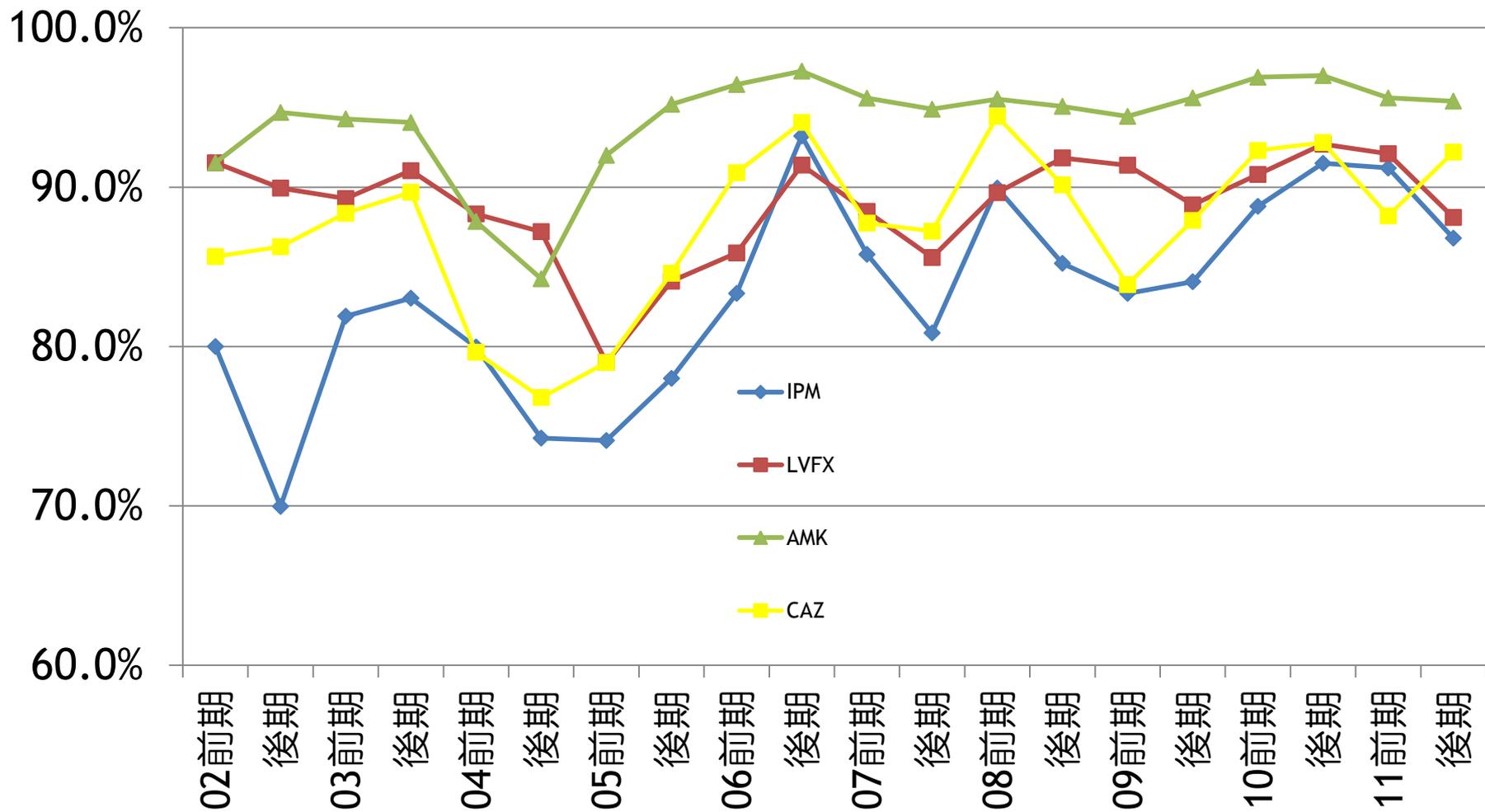


入院患者における MRSA陽性症例数と陽性率の推移





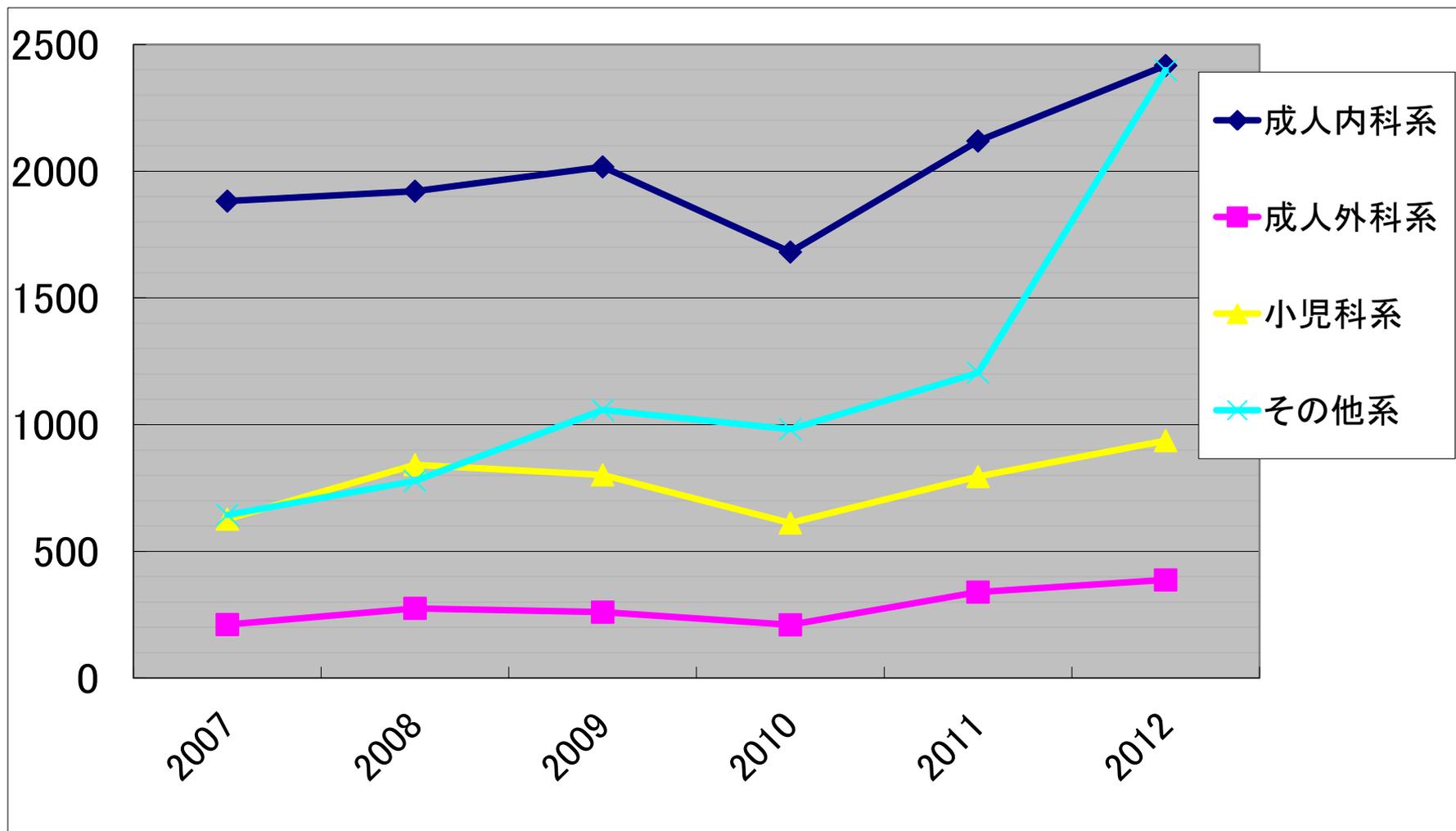
緑膿菌の感受性率



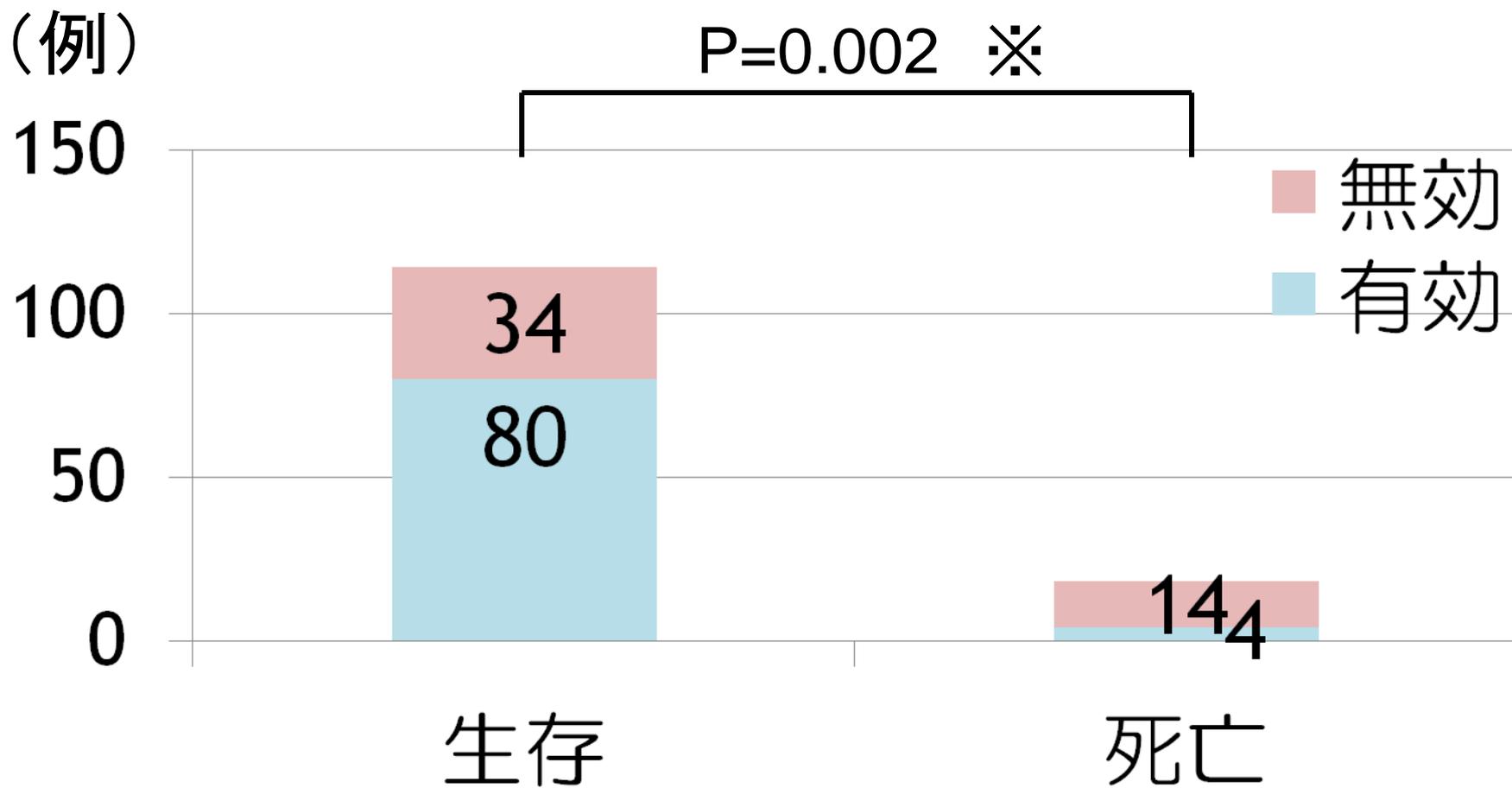
血液培養検査実施状況

	のべ入院 患者数 (人/年)	血液培養検査 (件/年)	1000患者・日あ たりの血液培養 検査数
2007年	353,248	3,364	9.52
2008年	336,891	3,816	11.33
2009年	320,708	4,137	12.90
2010年	308,802	3,485	11.29
2011年	306,494	4,523	14.76
2012年	310,350	6,217	20.03

診療科系統別血液培養実施件数の推移



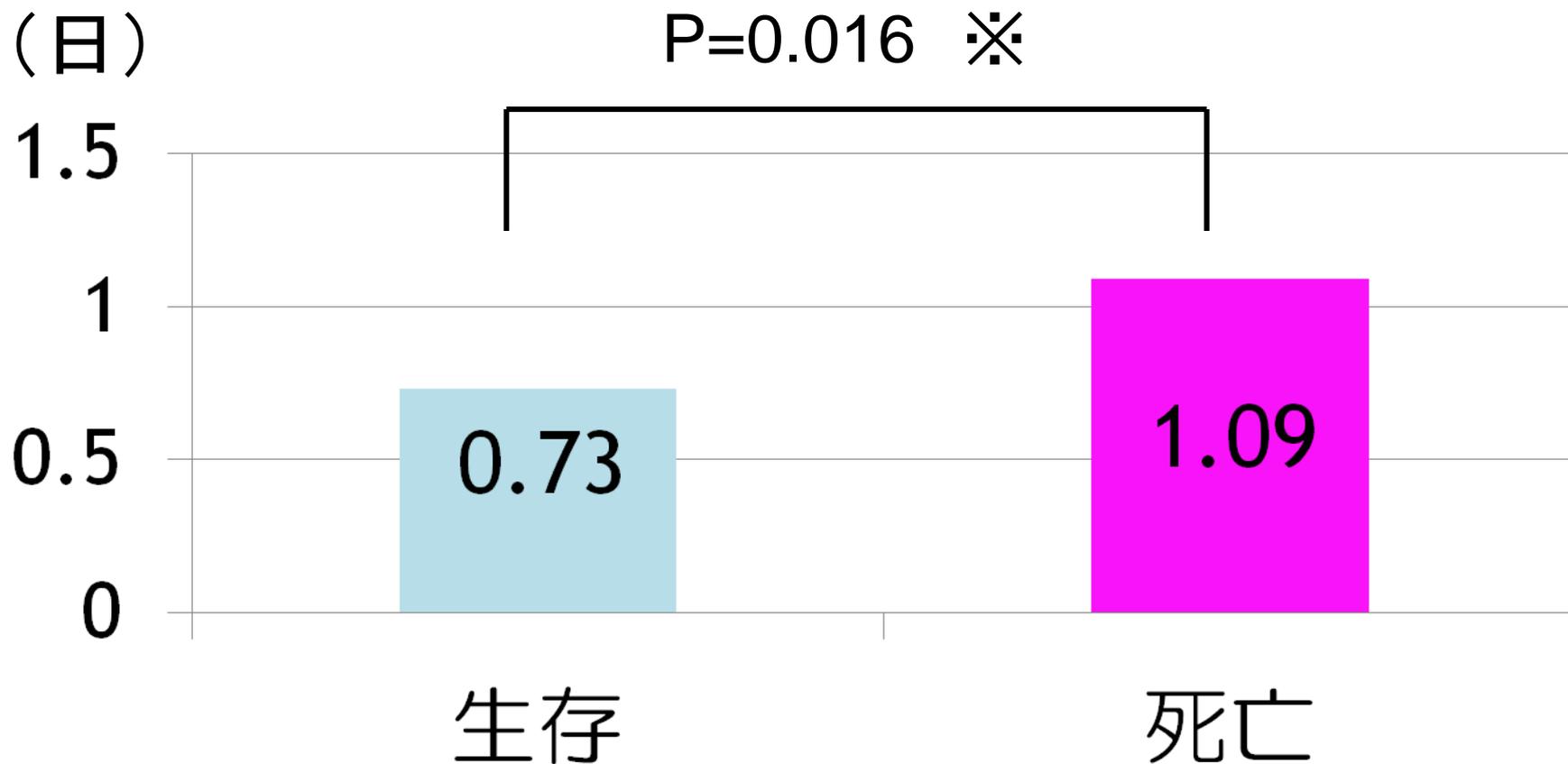
血培陽性判明時に有効な抗菌薬が投与されていたか？



※Mann-Whitney's U test

白野倫徳；第85回日本感染症学会総会, 2011

有効な抗菌薬が投与されるまでの日数



※Mann-Whitney's U test

白野倫徳；第85回日本感染症学会総会, 2011

まとめ

- 感染症は全ての診療科に存在する。
- 感染症は医療資源を浪費する。
- 感染症は取り組み次第で防止できる割合が大きい。
- 適切な院内感染対策、感染症診療は患者の予後に直結する。

ご清聴ありがとうございました

